



# かじや通信

## 第6号

発行日：平成26年8月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

### 暑さを忘れて

## 2週連続ウクレレ・ライブ

七月の「かどや昼下がりにコンサート」は、二十日と二十七日の2週にわたり夏にぴったりの涼しげな音色のウクレレ・ライブが行われた。

二十日は、関西を中心にライブ活動を展開中のおがわてつやさんが登場。おがわさんは、自らの奏でる音楽が祈り(pray)であるようにとの思いを込めて、単なるprayer(演奏者)ではなく、prayerを自称している。その言葉通り一曲一曲に想いが込められた演奏



に、観客は暑さも忘れて聞き入っていた。ウクレレとは言えハワイ

五曲を披露した。

昼下がりにコンサートは、座敷と呼ばれている畳敷きの部屋で行われるため、観客はイスではなく座布団または畳に直接座る。「それなら僕もイスはいりませぬ」とおがわさん。観客と同じ目線での演奏は一体感が増し、おがわさんのウクレレに込めた思いがピンピン伝わるコンサートとなった。

二十七日に登場したのは、岐阜県在住の坂井祖(はじめ)さんだ。坂井さんの本業は、ウクレレ・ビルダー(製作



アンを連想しがちだが、おがわさんのパートリーは、ジャズやロック、ピートルズからオリジナル曲まで幅広く、2ステージで全十



家)で、演奏はウクレレ普及のため。レパートリーは、ジャズとボサノバで、2ステージ十曲を、少しはにかみがちにトークを交えながら熱演した。紡ぎだす音は優しく、かつ煌びやかで、鳥羽にもウクレレ・ファンを増やしたに違いない。

ウクレレは、鳥羽ではまだなじみが薄かったようで初回の参加者は二十五名だったが、おがわさんの演奏に感銘した人達のロコミもあり、二回目は五十人近い人達が参加してくれた。

2週に亘るコンサートは、プレイスタイルは異なるものの、いずれもウクレレに託した熱い思いがひしひしと伝わる素晴らしい演奏で、暑さも演奏場所が鳥羽であることも忘れさせてくれる夢見心地のひと時をプレゼントしてくれた。

# かどや塾で市民力発信

かどや塾は、市民の皆さんが個人的に行っている研究の発表の場としても活用していただいている。

◇ ◆ ◇

五月十八日には「伊良子清白と白鳥短歌会の人々」の演題で尾崎徹氏が講演した。尾崎さんは、鳥羽一丁目に移築された伊良子清白邸の管理に一時期関わったことから清白に魅せられ、以来コツコツと研究を重ねている。



伊良子清白(明治十年〜昭和二十一年)は、医学校在学中から詩人としての頭角を現し、明治三十九年に詩集『孔雀船』を出版し、高い評価を得たが、その後、医業に専念することとなり詩壇を去り、医師として全国を転々としたことから「漂泊の詩人」と呼ばれている。その清白が鳥羽の小浜で開業



いた昭和の頃の話なども紹介した。当日は、中村さんの若い頃からの友人も多く参加されて和気あいあいムードに終始し、後半

医として過ごした頃(大正十一年から昭和二十年まで)、鳥羽には白鳥短歌会が結成され地元の人歌人たちがその才能を開花させていた。尾崎さんは、同会の人達の活躍ぶりや清白との交流等を、様々なエピソードを交えて分かりやすく紹介した。

◇ ◆ ◇

六月十五日には鳥羽の重鎮のひとり中村真一氏を講師に迎え、「鳥羽昔語り」と題して、鳥羽の歴史等について詳しくお話しいただいた。また、岩崎や赤崎の町名の由来や、鳥羽が人で溢れていた昭和の頃の話なども紹介した。

には「こんなこともあったなあ」「そうやったなあ」等、まさしく昔語りで盛り上がった。

◇ ◆ ◇

七月六日は、翌日の七夕祭に因み「竹と祈りと」をテーマに岡野翔さんにお話しいただいた。県外で大学生活を過ごした岡野さんは、出身地の志摩市に戻って就職した。休日等に地元周辺をドライブしていると、紙の飾りを付けた竹が道端や川などに飾られていることが気になっていた。そこで、地元のお年寄り等に聞いたところ、古くから継承されている地元の祭に使われていることが分かった。

その後も、あちこちで竹の飾りを見つけた岡野さんは、古来から日本では竹が神事に使われており、その風習が伊勢志摩地方では竹立て神事として残されていることに興味をひかれ、休日を利用して、竹立て神事が残っている場所の特定や、地域によって微妙に異なる祀り方、その竹に託された祈りの意味合い等を調べ始めた。

当日は、研究はまだ道半ばといいながら、綿密で地道な研究成果を写真を交えながら、分かりやすく解説した。



これら日本独特の神事は、少子高齢化による後継者不足で年々減少している。消えゆく風習を一つでも多く後世に伝えたいという岡野さん。今後の研究にも目が離せない。

## とほほ〜事務局の嘆き

点前味噌になるが、ここで紹介したセミナーは、いずれも市民レベルでもこんなに真摯に研究している人がいるのだと感懐する素晴らしい内容ばかりだ。ところが、五月と七月の参加者は一桁台のトホホ状態。事務局の宣伝方法に問題があるが、来ていただければ必ず収穫はある。イベント情報等でこの手のセミナーを目にしたら、是非、是非、ご参加ください。ご損はさせません！

## 展示にも市民力☆キラリ☆

かどやでは、過去の『かどや通信』でも紹介したが、市民の方々が趣味として取り組んでいる様々なジャンルの作品を展示している。

### 赤崎祭には生花を

六月二十二日の赤崎祭には、赤崎神社参拝の方々にかどやを知っていただくかと昨年同様、開館時間を二十時まで延長し、約二百人の方が来館された。

昨年は、赤崎祭に彩りを添えるため、錦町婦人会の方々に生け花を飾っていただき好評を博した。今年も是非にとお願いしたところ、快諾いただき、十四点が玄関や座敷、台所等に飾られた。どの花も場所の雰囲気をとらえた素晴らしい出来栄で、来館者の目を楽しませてくれた。



素晴らしい出来栄で、来館者の目を楽しませてくれた。

### 花の水彩画展

庄司武臣さん

んが主宰する水彩画教室の「花の水彩画展」が五月七日から二十七日まで開催され、

和の建物にぴったりのやさしい花の絵が多数展示された。見学者は「癒されるなあ」と、繊細な筆使いに見入っていた。

南伊勢町在住の庄司さんは、約二十年前から鶴方で水彩画教室を開く一方、南伊勢町には翔鶴窯という窯を持ち作陶活動も行っている。同展では、生徒さん十二名の作品だけでなく庄司さんの陶器も飾られた。庄司さん



んは、大のフクロウ好きで、大小様々なふうろう約四十点が館内だけでなく、庭にも飾られ、来館者を楽しました。



### 個人を偲ぶ遺作展

鳥羽で人生の大半を過ごした故中村エマさんと故高山幸子さんが残した作品展が、六月四日から十九日まで開催された。

手仕事が好きだった中村エマさんは、自宅の木目込み人形の教室を開いていた。活動的な高山幸子さんは伊勢型紙を習っていたが、体力に衰えを感じてからは力のいる伊勢型紙を諦め、エマさんの教室に通い始めた。同級生の娘を持つ二人は、人形作りながらも会話が弾み、楽しい時間を共有していたそうで、二人の楽しさが伝わる作品が並んだ。交際範囲の広がった二人を偲ぶように、生前交流のあった人達が作品を見に訪れていた。



高山幸子さん作

二人の楽しさが伝わる作品が並んだ。交際範囲の広がった二人を偲ぶように、生前交流のあった人達が作品を見に訪れていた。



中村エマさん作

### 出会いの場

かどや屋下がリコンサートは、七月になんと二週連続で県外のプレーヤーによるウクレレ演奏会が実現した。

これまでは、地元の方々に出演していただいております。今回も伊勢志摩等でライブ活動をしている人に出演交渉したが、「修行の身なので」との返事。しかし、なんとフェイスペインクで出演者を募ってくれて、二人のミュージシャンを迎えることになった。

早速、イベント案内を作ることになったが、二人の情報はほぼゼロ。インターネットで彼らの情報収集に取りかかったところ、それは驚きの連続だった。

おがわさんは、いつも祈りを込めて演奏するため、自らを「おがわ」祈る人と称しているとブログに書いていた。その言葉通りかどやでもおがわさんの祈りがピンピン伝わるライブならではの、迫力に満ちた素晴らしい演奏に出会うことができた。

坂井さんのブログでは、さらに驚きが増した。本業はウクレレ製作で、ブログにはアマチュア製作者の参考になればと、ウクレレ作りのノウハウが惜しみなく公開されていたのだ。企業秘密なのではと心配したが、坂井さんの目標は世界に通じる製作者になること。その志の高さに、またまた驚かされた。演奏活動もウクレレを広めるためだとして、ブログには、ウクレレへの情熱がほとばしっており、「こんなにも自分の仕事を愛し、ひたむきな努力を日々重ねている人がいるのか」と感動の思いに満たされてしまった。

二人の素晴らしいミュージシャンを知ることができたのも屋下がりのおかげ。今後も、皆さんの協力をいただき、素敵な人たちの出会いの場を提供していきたい。

## 小さな訪問者たちも興味津々

五月一日には安楽島小学校の四年生三十八名が、五月九日には加茂小学校の三年生から五年生七十名が、かどやを訪れた。安楽島小学校の子供たちは課外授業の一環だったため事前にいくつかの質問が与えられており、その回答



を探そうとスタッフの説明にも真剣に耳を傾け、さらに「これは、何するもんですか」等々の積極的な質問

でスタッフを驚かせた。

遠足で訪れた加茂小学校の生徒たちは、3学年混合のグループ行動をとっており、五年生がリーダーとなり、下級生を引率。リーダーシップや団体行動の勉強にもなっていたようだ。

両校とも滞在時間は短かったものの、「広いなあ」と言いながら、興味津々の表情で館内を駆け巡っていた。

後日「もう一回ゆっくり見たいって言うので」と、数人の生徒さんがお母さんと一緒に来て



くれた。かどやには様々な団体が足を運んでくれたが、小学生の団体は初めて。子供たちにも興味を持ってもらえたことが分かり、スタッフを喜ばせた。

## 鳥羽春祭りにも一役

恒例の鳥羽春祭りが四月五日と六日に行われた。この祭は、鳥羽の氏神である大山祇神社と賀多神社の祭日で、かどやのある藤之郷(旧名)は、錦町、横町、中之郷とともに大山祇神社氏子町で、天狗と獅子の舞を毎年四町持ち回りで奉納する。今年は、藤之郷が年番のため、かどやでは西玄関を宿として提供した。同月九日から二十八日まで、祭で使用した天狗の衣装も展示



した。たまたまかどやを訪れた観光客は、普段真近で目にするこの美しい衣装をまじまじと見つめていた。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆  
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

## かどや保存会会員募集中!

かどや保存会は、歴史的な文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。お陰さまで、すでに26年度会員に登録いただいた方は200名を超えましたが、さらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H26/4/1~H27/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し:かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

- (2)銀行振込:郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
三重銀行 普通 かどや保存会 2289016